令和２年度 兵庫県立明石北高等学校 学校自己評価【結果】

教育目標	「兵庫が育む　こころ豊かで自立する人づくり」の基本理念のもと、校訓である「自主・協調・創造」を基盤として「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「健やかな体（体）」に裏打ちされた「生きる力」を育むとともに、本校が育てる生徒像である「基礎的な人間力の上に、探究心を核とした、主体性、協働性、表現力を持つ生徒」を育成する。
重点目標	1　魅力ある学校づくりの推進：生徒一人一人が成就感や達成感を持って学びたいことが学べる魅力ある学校づくりと、情報を積極的に提供し、学校としての説明責任を果たす地域に信頼される学校づくりを推進する。 2　豊かな人間性の育成：命と人権を大切にし、社会のルールや公正さを重んじる心など、「心の教育」の充実を図り、豊かな人間性を育成するとともに、国民の一員としての自覚と国際社会に対応しうる教養を高める教育を推進する。 3　個性や創造性を伸ばす教育の充実：「確かな学力」を育むとともに、主体的、創造的に「生きる力」を育成し、一人一人が個性や創造性を伸ばし、自ら学ぼうとする意欲や関心を喚起する教育を推進する。 4　「在り方生き方」を考える教育の推進：生徒が自己の存在感や有用性を実感し社会の一員であることを自覚させ、自分の人生を積極的に切り拓いていく心を育む教育を推進する。 5　開かれた学校づくりの推進：人格形成の上で重要な役割をもつ家庭ならびに地域社会との相互理解・相互信頼の上に立った連携を深め、学校及び家庭における教育効果を高める教育を推進する。

【実践目標の達成状況評価】　４：よくできている　３：できている　２：あまりできていない　１：できていない　＊：わからない
【評価基準】４段階評価の平均　Ａ：３．０以上　Ｂ：２．８以上　Ｃ：２．６以上　Ｄ：２．５以下　［評価者（回答数）：５６人］

領域等		評価の観点		評価項目	実践目標（指標）	平均	評価
学校運営	共通項目	開かれた学校づくり	1	家庭や地域への情報発信	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.1	A
			2	学校評議員を活用した学校運営の推進	学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	2.7	C
		生徒指導	3	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.0	A
			4	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.1	A
			5	いじめの未然防止	いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.0	A
		進路指導	6	進路指導体制の充実	進路指導部と学年の連携を深め、３年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実に努める。	3.0	A
			7	主体的な進路選択能力の育成	個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	2.8	B
		教職員の資質向上	8	計画性を持った研修の実施	学校の諸課題、特にICT機器の活用推進や進路に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.0	A
			9	社会の変化に対応した教育観の育成	学力の三要素の育成を目標とした学習内容の精選と授業改善に取り組む。	2.6	C
		危機管理体制の整備	10	実効ある危機管理マニュアルの策定	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.5	D
			11	教員の実践的な研修・訓練	不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	2.2	D
	選択項目	学校運営全般	12	校務分掌と協働体制の確立	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	2.7	C
			13	勤務時間の適正化(働き方改革)推進	勤務時間の適正化(「ノー部活デー」の取組を含む)を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	2.5	D
教育課程	共通項目	自ら学び自ら考える力の育成	14	生涯学習の視点での実践能力の育成	学校設定教科・科目や多様な選択科目を設定し、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成（検討）する。	2.6	C
		基礎・基本の定着	15	学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	主体的・対話的で深い学びを実現するため、アクティブ・ラーニングの視点からの教授方法の研究と開発に努める。	2.8	B
		総合的な学習(探究)の時間(課題研究)	16	創意工夫を生かした実践の展開	探究活動を通して協働性と表現力を持つ生徒を育成するよう努める。	3.0	A
		個に応じた学習指導の徹底	17	評価方法の創意工夫	「総括的評価」に加えて「形成的評価」の観点を取り入れ、学習評価の精度を高める。	2.3	D
	選択項目	特別活動（学校行事等）	18	自主的・実践的な活動の活性化	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	2.8	B
			19	学校行事の精選と行事内容の充実	学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。	2.7	C
課題教育	共通項目	防災・安全教育	20	防災教育に係る指導力・実践力の向上	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	2.5	D
		人権教育	21	人権教育推進体制の充実	３年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.0	A
	選択項目	情報教育	22	情報活用能力と情報モラルの育成	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	2.9	B
		環境・福祉教育	23	環境教育の推進	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	2.6	C
	独自項目	学校の個性化・多様化	24	第3期SSH初年度の事業推進	【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動（課題研究を含む）の充実を図る。	3.0	A
			25	SDGsの理念の各教科・科目への普及	【全校】各教科・科目の授業にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	2.6	C
					【総合評価】	2.8	B

令和2年度学校評価　教員・生徒・保護者による評価結果比較表　【評価基準日：令和3年2月1日】

【教職員（行動指標）】　4：よくできている　3：できている　2：あまりできていない　1：できていない　＊：わからない
【生徒・保護者（成果指標）】　4：そう思う　3：どちらかといえばそう思う　2：どちらかといえばそう思わない　1：そう思わない　＊：わからない
※保護者の方には、コロナ禍にあったことを踏まえ、特別活動の評価について、全員に「わからない」を選択していただいた。
【評価基準】　4段階評価の平均　A：3.0以上　B：2.8以上　C：2.6以上　D：2.5以下

領域等		評価の観点	教職員（回答：56名）	平均	評価	生徒（回答：965名）	平均	評価	保護者（回答：381名）	平均	評価
学校運営	共通項目	開かれた学校づくり	ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.1	A	学校ホームページや学年通信、Google Classroom 等で、必要な情報が得られている。	3.2	A	学校ホームページや学年通信等で、必要な情報が伝えられている。	3.0	A
			学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	2.7	C						
		生徒指導	登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.0	A	交通ルールやマナーを守り、安全に登下校している。	3.6	A	子どもは基本的な生活習慣や交通道徳が身についている。	3.4	A
			適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努め、生徒の内面理解を図る。	3.1	A	先生方には、不安や悩み事を気軽に相談できる雰囲気がある。	3.0	A			
			いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.0	A	先生方からは、いじめを生まない、許さないという姿勢が感じられる。	3.2	A	学校全体でいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める姿勢が感じられる。	3.0	A
		進路指導	進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた進路HR・進路行事の実施と内容の充実に努める。	3.0	A	進路選択や進路実現に向けた学習支援や行事、個別面談が充実している。	3.1	A	子どもの主体的な進路選択や、進路希望の実現に向けた情報提供や支援体制が充実している。	3.0	A
			個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	2.8	B						
		教職員の資質向上	学校の諸課題、特にICT機器の活用推進や進路に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.0	A						
			学力の三要素の育成を目標とした学習内容の精選と授業改善に取り組む。	2.6	C						
		危機管理体制の整備	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.5	D						
			不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	2.2	D						
	選択項目	学校運営全般	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	2.7	C				子どもの学年の経営方針（どのような生徒を育てたいのか）を理解している。	2.8	B
			勤務時間の適正化（「ノー部活デー」の取組を含む）を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	2.5	D	「ノー部活デー」の取組がなされており、バランスのとれた生活を送っている。	2.8	B	「ノー部活デー」の取組により、子どもはバランスのとれた生活を送っている。	3.0	A
教育課程	共通項目	自ら学び自ら考える力の育成	学校設定科目や多様な選択科目を設け、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成（検討）する。	2.6	C	生徒が興味・関心が持て、主体的に学習に取り組める授業が多い。	2.9	B	子どもの興味・関心に対応した特色ある教育活動が行われている。	2.9	B
		基礎・基本の定着	主体的・対話的で深い学びを実現するため、アクティブ・ラーニングの視点からの教授方法の研究と開発に努める。	2.8	B				入学時と比較して、子どもには主体的に学習に取り組む姿勢が育っている。	3.1	A
		総合的な学習（探究）の時間（課題研究）	探究活動を通して協働性と表現力を持つ生徒を育成するよう努める。	3.0	A	【2・3年生対象】総合（課題研究）の時間を通じて、思考力・判断力・表現力が高められている。	3.0	A			
		個に応じた学習指導の徹底	「総括的評価」に加えて「形成的評価」の観点を取り入れ、学習評価の精度を高める。	2.3	D	生徒一人一人の実態に応じて、きめ細かな学習指導が行われている。	2.8	B	子どもに対して、個に応じたきめ細かな学習指導と評価がなされている。	2.8	B
	選択項目	特別活動（学校行事等）	生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	2.8	B	学校行事や生徒会行事、ホームルーム活動に積極的に参加（協力）している。	3.3	A	各種学校行事の内容や実施時期は満足できるものである。	—	—
			学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。	2.7	C						
課題教育	共通項目	防災教育・安全教育	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	2.5	D	防災に関する訓練や授業等を通して、防災・減災の意識を高めることができている。	2.9	B			
		人権教育	3年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.0	A	互いの違いを認め合い、自他を大切にしようとする態度が身についている。	3.3	A	子どもには、互いの違いを認め合い、自他を大切にしようとする態度が備わっている。	3.4	A
	選択項目	情報教育	生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	2.9	B	スマートフォンやSNSを利用する時は、ネット上のルールやマナーを守っている。	3.6	A	子どもはスマートフォンやSNS利用時のルールやマナーが身についている。	3.1	A
		環境・福祉教育	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	2.6	C	校内清掃に励み、身近な生活環境を美しく保とうと意識している。	3.3	A	子どもたちの生活環境・学習環境はよく整えられている。	3.1	A
	独自項目	学校の個性化と多様化	【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動（課題研究を含む）の充実を図る。	3.0	A	【1年8組対象】STEAM教育の目的をある程度理解している。	3.1	A			
			【全校】各教科・科目の授業にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	2.6	C	SDGsという言葉の意味とその内容をある程度理解している。	2.8	B			
			【総合評価】	2.8	B	【総合評価】	3.1	A	【総合評価】	3.0	A

〈教員による自己評価がＣ・Ｄであった実践目標の改善に向けて〉

項目	実践目標（指標）	Check から始まる「CAPD サイクル」の確立に向けて
9	学力の三要素の育成を目標とした学習内容の精選と授業改善に取り組む。	＊大学の推薦書においても、既に三要素に関する評価が求められている。新教育課程の実施をひかえ、知識・技能注入型の授業からの脱却を図りたい。
10	実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	＊従前のマニュアルを大幅に見直し、内容を更新したことは評価できる。ただ、危機管理の意識・行動の大半を新型コロナウイルス対策に向けざるをえず、他の実践が伴わなかった。 ＊次年度は、マニュアルを最新かつ実際に役立つものにするとともに、教職員研修等でシミュレーションを行い、職場全体で危機への対応力を向上させたい。
11	不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	
12	学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	＊学年・部ともに、教職員個々は自己の責務を自覚し、よくやっているが、横断的なつながりが弱い傾向にある。同僚生が高く、風通しのよい職場づくりを進めたい。
13	勤務時間の適正化（「ノー部活デー」の取組を含む）を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	＊次年度は校務分掌組織を一部改編（統廃合）することが決定している。上記 12 の取り組みと合わせて、校務の効率化を図りたい。 ＊部活動指導についても、働き方改革の一環として、今年度末に活動時間の見直しと確認を行った。部活動指導への思いは、教員間で開きがあるが、「ノー部活デー」の趣旨の再確認と、校内規定の遵守により、在校等時間の削減につなげたい。
14	学校設定科目や多様な選択科目を設け、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成（検討）する。	＊次年度から教科主任の任期を２年以上とすることにより、教育課程委員会での協議に継続性・発展性を持たせるとともに、教職員間の共通理解を促進したい。 ＊新教育課程の実施をひかえ、観点別評価の導入に向けて中学校から学ぶなど、具体の取り組みは緒に就いたばかりである。 ＊次年度は、シラバスの作成、評価規準の確立等をはじめ、本格的に学習評価の在り方を研修し、見つめ直す１年としたい。
17	「総括的評価」に加えて「形成的評価」の観点を取り入れ、学習評価の精度を高める。	
19	学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。	＊コロナ禍で、大半の行事が中止、規模縮小、内容見直し等に追い込まれた。次年度も制約を受けるだろうが、だからこそ、柔軟な発想で魅力ある行事を企画したい。

20	防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	＊コロナ禍で、教職員・生徒ともに、避難訓練、心肺蘇生法等の講習会を実施できなかった。 ＊次年度の訓練では、避難して終わりではなく、地域とも連携し、災害時に教職員・生徒が弱い立場の住民の援助者となるための力を身につけられる訓練内容を企画し、実践したい。
23	ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	＊生徒による学校評価でも、清掃の不十分さを指摘する記述があった。日々の清掃徹底にとどまらず、課題研究、ふるさと貢献活動等を通して、環境教育を推進したい。
25	各教科・科目の授業にＳＤＧｓの視点を取り入れ、17 の目標と関連付けた実践を行う。	＊この１年間で、ＳＤＧｓという言葉そのものは学校全体にほぼ定着した。次年度は、意識化・見える化と内容の精査を行い、具体的な実践につなげたい。

〈教員・生徒・保護者による評価を踏まえた学校評議員の意見・感想等（一部）〉

- 進路指導に関して、生徒・保護者ともに昨年度より高評価になっている。改善が見られ喜ばしい。
- 生徒指導に関して、教員・生徒・保護者、すべてがＡ評価になっている。中学校の側からすると、生徒を安心して送ることができる。
- コロナ禍で、保護者が学校を訪れ、自分の目で確かめることはほとんどできなかったはず。それだけに、家庭での親子の会話があっての保護者の高評価であれば、すばらしいことだ。
- 教員の評価が低いことについて、日頃の取り組みを真摯に振り返り、真面目に回答したからこそではないか。
- 災害発生時、高校生ともなると、自分が安全に避難するだけでは十分とは言えない。幼い子どもや高齢者等の援助者、大きな戦力になることができる。防災避難訓練の在り方について、地域と協力、連携して実施することも検討してほしい。
- 教員の評価が低いことについて、実際に現場ではちゃんとできていても、成果物を求めると評価することが難しいのではないか。評価の仕方そのものの研修も必要ではないか。
- 低評価のＣ・Ｄをどう改善するのかも、もちろん大切だが、むしろＢをＡにするための取り組みの方が、学校の魅力を高めることになるのではないか。
- 勤務時間の適正化について、民間でも同じだが、言うだけ（掛け声だけ）では実現できない。可視化と仕組み作りが必要である。
- 部活動指導について、外部指導者の活用や民間委託が進むと、10 年後にはなくなっているのではないか。教員の本務は授業。早く退勤して映画を見たり本を読んだり、他業種、地域の人たちと交流したりすることが、いい授業につながることがある。「授業が大事だから早く帰る」という発想もある。

〈生徒・保護者による評価（記述回答の概要）〉

	生　　徒	保　護　者
明石北高校の長所	回答数　1位：自然環境の豊かさ 2位：制服のかわいらしさ 3位：比較的自由な校風 4位：きれいなトイレ 5位：生徒のやさしさ、まじめさ、人柄のよさ 6位：いじめがないこと、平和なこと 7位：学習環境、切磋琢磨する雰囲気 8位：文武両道が可能なこと 9位：先生（人柄、授業等） 10位:食堂メニューが豊富でおいしい 実際の記述より ・いじめや嫌がらせがなく、多くの人が楽しんで学校生活を送っていること。 ・みんなが目標を持っていて、それに向かって努力しているので、自分も頑張ろうと思えること。 ・自由なこと。自由であるが故、自己管理ができないと大変だが、自由は楽しい。 ・自然豊かな環境で発展的な理数系の内容を学ぶことができること。 ・トイレがきれい。大便も安心して用を足せる。	回答数　1位：のびのびとした自由な校風、自主性が尊重されている点 2位:学習に意欲的な生徒の存在そのものを含む学習環境の充実 3位：生徒自身の人柄、まじめさ 4位：自然の豊かさ 5位：生徒と教員の良好な人間関係 6位：文武両道が自然にできる環境 7位：学習指導の面倒見の良さ 8位：ＳＳＨに指定されていること 実際の記述より ・先生方の愛情を非常に感じる。勉強最優先のあまり、子どもに過度なプレッシャーを強いる進学校も多い中、目先の受験にとらわれず、心身ともに子どもを成長させてもらえる進学校として、我が子をこの学校に通わせてよかった。 ・穏やかな雰囲気。担任の先生が子どもの意思を尊重してくれ、一歩引いて見守ってくれている。外見を重視する校則がない点も素晴らしい。 ・生徒の仲が良く、よく協力し合えていて、人見知りの我が子が３年間１日も休まず通学できた。

	生　　徒	保　護　者
明石北高校の改善すべき点	回答数　1位：駅からのアクセス等立地条件の悪さ（※長所１位の裏返し） 2位：体育館のトイレが汚いこと、校舎内の清掃が不十分なこと 3位以下、順不同 ・校舎の老朽化、傷み ・エアコン調節が教室で不可能 ・自転車運転のマナーが悪い ・屋根のない駐輪場がある ・教員の年齢が高い、考えが古い ・「ノー部活デー」があいまい ・生徒に主体性がない、受動的 その他 ・間違えてもいいという授業の雰囲気にする ・個人のタブレット等を活用し、もっと快適かつ円滑な授業や日常生活を可能にすべき ・３年生後半の授業が受験指導に偏りすぎ	施設・設備に関するもの ・体育館トイレの汚さ　・清掃の不徹底 ・駐輪場及び周辺の整備　・施設の老朽化 ・冷暖房の適切な活用　・個人ロッカー設置 立地・環境に関するもの ・交通の便の悪さ、バスの本数の少なさ ・自家用車の乗り入れができないこと 教員や授業、進路指導に関するもの ・自由度が高い故、細やかな指導が不十分 ・できて当たり前の雰囲気が強く、授業についていけない生徒のフォローが必要 ・通塾の有無で受験の意識や知識に開きあり その他 ・学業と部活動の両立させるための配慮必要 ・学校ホームページの利便性向上、内容充実 ・制服着用の規則について柔軟な対応が必要 ・保護者向けメール送信サービスが必要

〈生徒・保護者から指摘を受けた主な改善すべき点への対応について（回答）〉

☑　体育館トイレについて　～年度末の工事により、悪臭の原因が取り除かれました～

体育館トイレの不評は、排水管がつまっている（＝汚物が逆流する）ことによる悪臭が主な原因でした。以前、排水管の高圧洗浄を行い、汚物等を強制的に洗い流しましたが、時間がたつとまた悪臭が漂うようになりました。そこで、地面を掘り起こして調査したところ、樹木の太い根が排水管内に侵入し、流路をふさいでいたことが判明しました。根は３月上旬に完全に除去しました。

これで悪臭の原因を断つことができましたので、今後は日常の清掃を丁寧に行うことにより、少しでも快適に利用できるトイレへと変えていきます。

☑　ホームルーム教室の空調（エアコン）について　～全教室に温湿度計を設置しました～

今年度は新型コロナウイルス感染症対策の一環として、夏期の冷房、冬期の暖房ともに、例年以上に臨機応変に対応してきました。また、空調設備の運用規則を整備、周知するとともに、すべてのホームルーム教室に環境管理温湿度計（「熱中症注意」指数表示あり）を設置し、空調 ON／OFF の客観的な目安を「見える化」しました。

しかし、暑い・寒いの感じ方には個人差（主観的要素）が大きいうえに、座席の位置にも影響されるため、全員が快適だと感じる教室環境を実現することは困難です。また、設備そのものの性能と老朽化という限界もあります。

引き続き、客観的な指標を基本に、生徒個々の要望にもできる限り耳を傾けながら、こまめな空調設備の運用と管理に努めます。ご理解をお願いします。

☑　施設・設備の老朽化について

現校舎（南校舎（普通教室棟）・北校舎（特別教室棟）・体育館棟）は、昭和 48 年（1973 年）５月の建築竣工です。以来、48 年が経過しました。その間、必要に応じ改修工事や耐震補強工事を行ってきましたが、随所に傷みが目立つことは否定できません。年度末も、上記の体育館排水管詰まり解消工事をはじめ、ガス配管取替工事、体育館アリーナ・剣道場床改修工事、受電ポンプ室受水槽屋根防水及び外壁塗装工事等を実施しました。

引き続き、緊急性・必要性の高い箇所から改修工事を進め、安全性を確保するとともに、これまで以上に清掃を丁寧に行うことなどにより、老朽化に伴うマイナス面を補っていきます。

☑　屋根のない駐輪場（いわゆる「青空駐輪場」）について

「青空駐輪場」は、徒歩通学が可能な地域に住んでいる生徒を対象に、自転車通学許可の便宜を図ったことによるものです。従って、各年度の「入学のしおり」の「自転車通学路線届」には、青空駐輪場該当生徒への補足説明として、「雨天の場合は徒歩通学が望ましい」と記されています。

新たに屋根を設置することは、建築基準法上の制約が大きいだけでなく、財源確保の点からも極めて困難です。また、砂利敷きについては、青空駐輪場周辺のぬかるみを解消するための措置です。本来は土のグラウンドの一画ですので、舗装することはできません。生徒には、自転車の速度を落として侵入することにより危険を回避するよう指導しています。

☑　授業改善・進路指導について

「学力の三要素」を重視した初めての大学入試を終えました。生徒個々の自己実現、進路実現に向けて、大学入試に対応できる学力の向上だけでなく、来るべき Society5.0 社会で必要とされる力の育成をめざして、教員も研修に努め、授業改善につなげていきます。

大学入試制度は年々複雑になってきています。「進路の手引き」や「キャリアガイダンス通信」を通して可能な範囲で情報提供をしていますが、今後も、進路講演会をはじめとする進路行事、ホームルームや面談等を活用しながら、さらに丁寧な進路指導に努めます。

☑　部活動指導（「ノー部活デー」の取組）について

「いきいき運動部活動（４訂版）」及び「文化部活動の在り方に関する方針」（ともに平成 30 年兵庫県教育委員会）では、ノー部活デーを週当たり２日以上（平日及び土日等の休業日にそれぞれ１日以上）実施することとしています。本校の部活動方針も、これらに基づいて策定しています。

すべての部が方針に則って活動するのが原則ですが、公式戦が連続する、公式戦前に練習試合を組むなどの事情により、部によっては休養日を確保できない時期があることも事実です。始業前練習（朝練）と定期考査前・定期考査中の活動についても、生徒によって無理を強いられていると感じることがあるかもしれません。

部活動の実施にあたり、生徒に対しては、学業と部活動の両立実現、家族や友人と過ごす時間の確保、地域等の活動への参加機会の保障などの配慮が必要です。指導する教職員にとっては、勤務時間の適正化とワーク・ライフ・バランスの保持という観点が欠かせません。

年度当初に、改めて「ノー部活デー」の実施について、教職員に周知し、共通理解を図ります。

☑　学校 Web ページ（ホームページ）について

学校評価に協力していただいたのは１月下旬から２月上旬でしたが、２月中旬以降は教育機関向けの Net Commons 3 という情報共有基盤システムにより、ホームページをリニューアルし、運営しています。以前のものに比べ、デザイン的に見やすく、必要な情報を得やすくなりました。

ただ、県のネットワークシステムを活用しており、気象警報発令時等、アクセスが一時的に集中したときに開くことができない（あるいは反応が極めて遅い）という課題は解消されていません。また、pdf ファイルを表示しようとクリックすると、表示されずにダウンロードされてしまうという不具合が生じています。ホームページのサーバーを管理している県立教育研修所と連絡を取り、対策を講じていますので、しばらくの間、ご不便をおかけしますがご了承ください。

また、ホームページ上での案内と並行して、Google Classroom を通じて、生徒に適宜必要な情報を送信しています。お子様を経由しての連絡となりますが、こちらもご確認ください。

❒ 最後に、生徒のみなさんへ ❒　課題を解決し、よりよい北高にするため、教職員はもちろん努力を惜しみません。同時に、みなさんにも期待し、主体的取り組みがなされるものと信じます。

And so, my fellow Americans, ask not what your country can do for you;
ask what you can do for your country.

[John F. Kennedy　Inaugural Address of The President（1961.01.20）]